

共同助成(福井県遊技業協同組合)

「こども公園フェス福井」事業

スポーツや遊び体験を通して子どもたちの成長や多様性理解・交流へとつながるイベントを実施

コロナ禍で外出機会が失われるなか、市民が触れ合える場の創出を目的としたイベントが福井市内で行われた。当日は、子どもの健やかな成長を応援する「サッカーフェス」に加え、パラスポーツや海外文化体験など、多様性理解の促進につながるような事業も充実。秋晴れの空の下、子どもたちの元気な声が響いた。



「こども公園フェス」の開催を告知するチラシ



多くの子どもたちが参加した「サッカーフェス」

市内の3カ所の公園を会場にしてスポーツや異文化を体験するイベント

「サッカーフェス実行委員会」は、一般社団法人福井県まちづくりセンターなどが事業構築や運営を含めてサポートする団体で、市民有志で構成され、サッカー振興を手段として、福井県の活性化を目指している。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により屋外活動の自粛が求められ、家族で公園に出かけたり、楽しみを共有したりするという日常が失われつつあるなか、市民の交流の場である市街地中心にある公園を活用した活動を草の根レベルで提案するために結成された。

同団体ではPOSCの助成を受け、コロナ禍で外出が制限されていた小学生とその家族をメインターゲットに、スポーツを通じて県内の子どもたちの健やかな成長に寄与するとともに、これからの時代を生きる子どもたちに求められて

いるマイノリティへの理解とコミュニケーション能力の向上に寄与することを目的として、「こども公園フェス福井」と銘打ったイベントを2020年10月18日に実施した。

会場となったのは、福井市中央公園、北の庄城址・柴田公園、新栄テラスの3カ所の公園で、メイン会場となった福井市中央公園では、スポーツを通じた交流を楽しんでもらうために「サッカーフェス」を開催した。スペインの強豪クラブチームが主催するキャンプでMVPに輝いたスーパー小学生、山崎翔空君をゲストに迎え、ドリブル対決、クレン玉入れなどサッカーボールを使った各種コンテストを実施し、飲食ブースや出店などで賑わった。また、柴田公園では車いすテニス、パラ陸上、車いすバスケットボールなどのパラスポーツを体験。新栄テラスでは、ブラジルブースで石遊びや缶遊び、中国ブースで昔遊びのほか、アメリカ人留学生による英語体験などを行った。

障がい児や在日外国人の支援・交流を盛り込むことで多様性理解の促進を図る

イベント当日は快晴に恵まれるなか、福井市内の小学生とその家族など、約2,500名が参加した。事業を進めるにあたり、同団体では、子どもたちの地域内コミュニケーションの活性化のため、地域を構成する様々なプレイヤーの融合も意識したという。

「多様性、ダイバーシティが叫ばれる昨今の社会状況を鑑みると、当初想定していたサッカーフェスをメインとした健常者中心のイベントスキームのままでは、円滑な地域内コミュニケーションという部分で物足りないものがあると感じていました。地域の健常者の家族に加え、弱者とも言われる様々な層の子どもたちの生活支援を強力に進め、平等な地域社会を構築することへ向けて、障がい児支援・交流、在日外国人支援・交流というプログラムを加味することで、多様性に対する理解促進が実現できるのではないかと考えました」と、事業担当者は話す。



子どもたちは車いすテニスや車いすバスケットなど様々なパラスポーツを体験

さらに、「コロナ禍の折、福井県内では大型のリアルイベント開催が困難でした。また本事業は市民発案型のイベントであるがゆえ、財政面での苦労が大きいと感じていました。そのようななか、本イベントの開催にこぎつけることができたのは、金銭的な面でも精神的な面でも紛れもなくPOSCの助成のお陰です」と、担当者。イベント終了後には福井新聞の紙面にイベントの様子が掲載することで、当日、イベントに参加できなかった子どもたちや親たちにも広く、多様性社会への理解や地域コミュニケーションの大切さといった考え方を伝えることができたこと、同団体では事業の手応えを振り返っている。

福井県遊技業協同組合より

コロナ禍における大規模イベントは苦労も多かったと思いますが、自粛や休校など外で遊ぶことが減った子どもたちにとって大変有意義なイベントになったと思います。



助成団体:サッカーフェス実行委員会



福井県が「幸福県」としてあり続けるために共生社会への理解を

今回の助成により実現した「パラスポーツ体験」や「外国人との交流」といったコンテンツを通じて、子どもたちが共生社会への理解を深めるきっかけになったと思います。何よりコロナ禍という特殊状況のなか、公園に子どもたちの笑い声が戻ってきたことが嬉しいです。

サッカーフェス実行委員会
福井新聞社 東京支社営業部 千田 耕平さん